

## 【第17回歴史都市防災シンポジウム】

開催日時：2023年7月15日（日） 10:00～17:40

開催場所：ハイブリッド開催（衣笠キャンパス存心館+Zoom）

参加者：179名（対面21名、オンライン158名）

講演者：立命館大学 理工学部 特命教授 深川 良一

鹿児島市教育委員会 文化財課 世界遺産保全係 主査 藤井 大祐

概要：

### 第17回歴史都市防災シンポジウム（2023.7.15）

歴史都市防災研究所の20周年に当たる今年度はハイブリッド開催にて、第17回歴史都市防災シンポジウムを実施しました。歴史都市や文化遺産の防災に関する33件の研究発表と活発な討議が行われ、日本、海外から179名の参加がありました。参加者のご協力のもと、シンポジウムは無事に成功裡に終わりました。

セッションは、防災技術（1）（2）、国際連携、水害・土砂災害（1）（2）、防災計画（1）－（4）のあわせて9セッションで、さまざまな研究発表と活発な討議が行われました。

特別講演企画では、立命館土曜講座とのコラボレーションで、本学理工学部特命教授 深川良一氏より「地盤災害グループ歴防20年の歩み」と題して、歴史都市防災研究のこれまでを振り返っていただきました。続けて鹿児島市教育委員会 文化財課 世界遺産保全係 主査 藤井大祐氏より「寺山炭窯跡の災害と復旧」と題したご講演をいただきました。藤井氏のご講演では、世界文化遺産の構成要素である炭焼窯の遺構の一部が大雨により崩落し、さらに背後の斜面からの土砂で流される被害に遭った事について詳細な報告がなされました。その後の対策や復旧の際の調査により、これまで知り得なかった新しい事実が発見された一方で、修復後には再び崩落が生じており、正確な復旧・復元と予防防災の両立の難しさについて、改めて考えさせられる重要な話題提供をいただきました。

なお、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol.17」として刊行しております。

### 優秀発表賞受賞者

学生の方、今年3月時点で学生であった方の発表の中から、発表内容、発表技術の優れた方を対象に「優秀発表賞」を授与しております。

各セッションの座長と採点担当教員による審査にもとづき、下記の方が受賞されました。

- ・ A 会場：井上斐文さん（立命館大学大学院 理工学研究科）
- ・ B 会場：昌本拓也さん（鹿児島大学大学院 理工学研究科）
- ・ C 会場：遠藤裕大郎さん（愛知県庁）



藤井大祐氏による特別講演の様子



シンポジウム開催中の様子

## 【立命館大学 ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修 2023】

開催日時：【オンライン】2023年8月14日（月）～9月1日（木） 各週月・木・金曜日

【オンサイト】2023年9月11日（月）～9月23日（土）（京都、神戸、広川、湯浅、海南）

【パネルディスカッション】2023年9月24日（日）

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所（ハイブリッド開催）および学外数か所

参加者：13名（オンラインオブザーバー2名、他学生インターン4名）

### 概要：

2023年8月14日（月）～9月1日（木）と2023年9月11日（月）～9月24日（日）の5週間にわたり、立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修（UNESCO Chair Programme on Cultural Heritage and Risk Management, International Training Course (ITC) on Disaster Risk Management of Cultural Heritage 2023, 17th year, Ritsumeikan University）を実施いたしました。第17回目となる今年度は、世界各国と地区から139名の応募があり、最終的にはアメリカ、イスラエル、韓国、サウジアラビア、スペイン、ハンガリー、パキスタン、フィリピン、マラウイの計13名と、新しい取り組みとして選出された4名の学生インターンが参加しました。研修には学内の教員をはじめ、国内の学術・行政機関（宮城大学、明石工業高校、愛知大学、文化庁、京都市消防局、京都国立博物館、文化財防災センター、京都市文化財建造物保存技術研修センター、東京文化財研究所、神戸市、湯浅町役場等）の専門家、国外（ICCROM、ICHCAP、CHwB、ラフバラー大学の教員や専門家等）からの専門家も含めて計30名以上の講師を迎え、オンラインとオンサイトによる講義・学外視察・ディスカッション・演習等を行いました。日本の文化遺産と危機管理に関する取り組みに加え、世界各国特有の文化遺産保全と防災の現状および今後の課題についても理解を深めました。

オンライン研修では、原理と理論的な内容について講義とディスカッションを通して文化遺産の災害危機管理計画に関する基礎知識を取得しました。昨年度と同様に週ごとに設けられたテーマについて、毎週2回、2時間半のライブセッションを行い、その他1回はフィードバックセッションとして受講生の個別のプロジェクトについて講師陣と相談ができる場を設けました。オンライン研修の開催中は受講生がライブセッションと前後の自由な時間に予習・復習できるような仕組みを導入しました。研修生は来日前に十分な時間をかけて各国の災害危機管理計画策定に必要な材料やデータの準備を進められ日本での実践的な部門を学ぶオンサイト研修に繋がりました。

次に、オンサイト研修は、実践的な講義と視察、ワークショップ等を中心としたプログラムとしました。今年度の国際研修のサブテーマは「無形文化遺産の保護と活用による文化遺産の災害リスク管理」としており、無形文化遺産である木造建築の伝統的技術、技能、知識、祭り（山・鉦・屋台行事）、および和食の原点醤油の町を訪問し、文化遺産の予防・応急対応・復旧・復興における無形文化遺産の活用と保護の必要性について理解を深めました。具体的には、例年の清水寺の防災計画と実践、東本願寺の防災設備、京都国立博物館での動産文化遺産の地震

対策、人と防災未来センターでの災害復興のプロセスの学び等に加えて、本年度は、京都市文化財建造物保存技術研修センターでの屋根工事の職人による伝統的技術の講義および大工道具の使用体験と、祇園祭とその運営基盤である山鉾町に関する視察と講義、醤油の町として知られる重要伝統的建造物群保存地区「湯浅町」の視察、そして災害記憶・防災文化として広川町の「稲村の火」についての視察、事前復興計画の事例として海南市の取組について視察と講義などを行いました。

日本の伝統技術や祭礼の仕組み等に代表される無形文化遺産が支える有形文化遺産の修復および災害復興の役割について学び、また災害記憶の継承方法と今後の災害に備える事前復興計画といった日本の取組についても学びました。

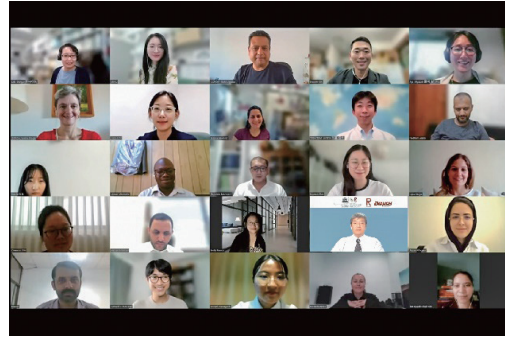
国際研修の最終日は国際専門家パネルディスカッション「文化遺産の災害危機管理の優秀な取組」を開催しました。2020年度に過年度研修生による優秀な取組についてワークショップを行っています。そのワークショップで選定された優秀な取組12事例を収めた書籍「Good Practices for Disaster Risk Management of Cultural Heritage」をRoutledge出版社より7月に出版することができました。本パネルディスカッションではこの書籍の内容を踏まえて今後の国際研修の在り方について議論を行いました。ゲスト講演には2020年度のワークショップにて優秀な取組として受賞された2014年度の研修生Elena mamaniにより行われました。また、パネルディスカッションのパネリストとしては初代ユネスコチェアプロフェッサーの益田兼房先生、Loughborough UniversityのKsenia Chmutina教授、Heritage in Emergencies BelgiumのElke Selter氏、George Town World Heritage IncorporatedのAng Ming Chee氏、Kaiwhakahaere PoutairangahiaのVanessa Tanner氏、当国際研修プロジェクトリーダーの大窪健之教授に登壇いただき活発な議論が行われました。

また、本年度からは国際研修事業が立命館大学学生のグローバル育成に貢献できるよう新しい取り組みとしてインターンシップ事業も始めました。4名の学生がインターン生として参加し、文化遺産防災学についての知識取得と同時に海外からの専門家と交流を深める貴重な経験となりました。文部科学省（日本ユネスコ国内委員会）は、ユネスコ活動の活性化の一環として、日本の若者のユネスコ事務局（地域事務所を含む）での研修の機会を推進するべく、ユニツイン／ユネスコ・チェアに認定されている大学の修士課程又は博士課程に在籍する学生を対象とした「ユネスコ研修プログラム」を2023年度から開始しました。今後は本国際研修のインターン生がユネスコ研修生としてキャリアアップに繋がることを期待しています。

立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修は、世界各国からの研修者の積極的な参加により国内外で高い評価を得ています。本研修では、今後も当研究所の研究成果に基づいたスキームを提供し、国内外に関係者のネットワークを築きながら、国際社会に向けた成果発信や社会貢献活動を継続してまいります。



仲谷総長との集合写真



オンラインでの集合写真



京都市文化財建造物保存技術研修センター  
での講義風景



東本願寺における防火設備の  
放水デモンストレーション



京都市文化財建造物保存技術研修センター  
にて職人の指導による檜皮葺の体験



研修生による白熱したディスカッション



大場修教授による日本家屋と水害の  
減災対策についての説明風景



佐藤弘隆准教授による祇園祭と  
その新興コミュニティに関する講義



清水寺視察時の集合写真



和歌山県広川町「稲むらの火」感恩碑について本塚智貴准教授による説明風景



平岡善浩教授による復興プロセス構築のワークショップ



海南市事前復興計画に基づいて設置された防潮堤の視察、金玖淑先生より解説



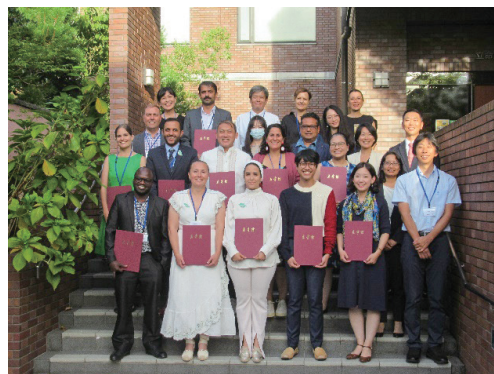
過年度研修生による優秀な取り組みについての議論風景



書籍刊行イベントとして行われた国際パネルディスカッション



閉会式にて、修了証書を贈られた風景



最終日、修了証書授与後の集合写真

## 【講師・パネルディスカッション登壇者一覧】

## ■国外講師

Rohit JIGYASU	Project Manager, Urban Heritage, Climate Change and Disaster Risk Management, ICCROM
Ksenia CHMUTINA	Professor, School of Architecture, Building and Civil Engineering, Loughborough University, Loughborough
Boyoung CHA	Director, Office of Planning and Management, ICHCAP
Aparna TANDON	Senior Programme Leader First Aid and Resilience for Cultural Heritage in Times of Crisis Digital Heritage, ICCROM
Rohit RANJITKAR	Nepal Program Director, Kathmandu Valley Preservation Trust
Elke SELTER	Coordinator, Heritage in Emergencies Research Fellow, British Institute for International and Comparative Law
Eugene JO	Programme Manager, World Heritage Leadership, ICCROM
Elena MAMANI	Project Manager, Deputy Head of Office, Cultural Heritage without Borders
Artnet HASKUKA	Chairperson, Council of Cultural Heritage-Prizren Historic Center
Vinka MARINKOVIĆ	Conservation Restorer, Croatian Conservation Institute
Zeynep Gul Unal	Yildiz Teknik University
Abdelhamid Sayed	Chairman, Egyptian Heritage Rescue Foundation (EHRF)
Ang Ming Chee	General Manager, George Town World Heritage Incorporated, Malaysia
Vanessa Tanner	Manager Archaeology Kaiwhakahaere Poutairangahia, New Zealand

## ■国内講師（講義登壇順）

友井 辰哉	公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長兼センター長
川田 徳宏	公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 理事
児島 真介	公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 理事
佐藤 弘隆	愛知大学 地域政策学部 准教授
疋田 綾	京都市消防局 予防部予防課 文化財係長
小宮 睦	京都府教育庁 文化財保護課
降旗 順子	国立文化財機構 京都国立博物館 学芸部 保存科学室長
鳴海 真人	能美防災株式会社 文化財防災室 東京事務所長
奥村 猛	能美防災株式会社 関西支社 文化財防災室 参事
吉田 智嗣	能美防災株式会社 関西支社 文化財防災室長
湯本 崇太	能美防災株式会社 関西支社 文化財防災室
中原 七菜子	湯浅町場教育委員会

池田 毅	神戸市文化スポーツ局文化財課
本塚 智貴	独立行政法人国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校 准教授
金 玖淑	京都大学防災研究所 社会防災研究部門・都市防災計画分野 民間等共同研究員
久保田 裕道	東京文化財研究所 無形文化遺産部 無形民俗文化財研究室長
平岡 義浩	宮城大学 事業構想学群価値創造デザイン学類 教授 基盤教育群長 事業構想学群副学群長
小谷 竜介	独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター 文化財防災統括リーダー
江島 祐輔	文化庁 文化資源活用課 修理企画部門 文化財調査官
益田 兼房	ITC 初代ユネスコチェアプロフェッサー 国際イコモス 文化遺産防災学術委員会 ICORP 理事 国際イコム 都市博物館委員会 CAMOC 委員

■学内講師

土岐 憲三	衣笠総合研究機構 特別研究フェロー
大窪 健之	国際研修 プロジェクトリーダー 理工学部 環境都市工学科 教授
矢野 桂司	文学部 地域研究学域 教授
吉富 信太	歴史都市防災研究所所長 理工学部 建築都市デザイン学科 教授
藤本 将光	理工学部 環境都市工学科 准教授
里深 好文	理工学部 環境都市工学科 教授
大場 修	衣笠総合研究機構 教授
金 度源	ユネスコ・コーチェア・プロデューサー 理工学部 環境都市工学科 准教授
Lata SHAKYA	ユネスコ・コーチェア・プロデューサー 衣笠総合研究機構 准教授

■コーディネーター

Lata SHAKYA	ユネスコ・コーチェア・プロデューサー 衣笠総合研究機構 准教授
-------------	------------------------------------

■サポーター

宮崎 彩	衣笠総合研究機構 専門研究員
李 敏	衣笠総合研究機構 専門研究員



## 【第17回 みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト】

表彰式：2023年10月21日（土）

開催場所：立命館大学 創思館1階 カンファレンスルーム

応募作品：33作品 41名

協 賛：株式会社パスコ、F レンタカー株式会社、株式会社帝国書院、

株式会社ネスト・ジャパン、NPO 法人災害ボランティアステーション日本、  
マツモラ産業株式会社、株式会社宝水、セコム株式会社、株式会社柴橋商会、  
能美防災株式会社、奥尻島観光協会、株式会社サンオート、ワエストロ株式会社、  
やまと産業株式会社、アキレス株式会社、株式会社コバック、株式会社宮田運輸、  
ヤマハ発動機株式会社、京都トヨタ自動車株式会社、株式会社アイシン、  
西日本旅客鉄道株式会社（順不同）

後 援：国土交通省国土地理院、京都新聞、KBS 京都、京都市、

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、一般社団法人人文地理学会、  
立命館地理学会、京都府警察、一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構、  
国土交通省近畿地方整備局（順不同）

概 要：

立命館大学歴史都市防災研究所では、社会貢献の一環として、2007年度より小学生向けの「地域の安全安心マップコンテスト」を実施している。自然災害、交通事故、犯罪など、小学生が自身の興味関心を持って選んだ安全安心に関わるテーマに沿って、身近な大人と共に地域を調査し地図化することを通じて、地域の安全安心を考えてもらうことが本事業の目的である。

本年度は全国から33作品（応募者総数41名）の個性豊かな作品の応募があった。厳選された入賞10作品の表彰式では、審査委員から作品講評が行われ、受賞者は作成の意図や工夫した点を語り、参加者の関心を引きつけた。表彰式は、対面とZoomによるハイブリッド形式で開催した。そこでは、舞台スクリーンにPowerPointを使って、入賞者の名前、学校名、学年、作品タイトル、作品写真のほか、副賞商品の紹介や審査員の講評を投影した。入賞作品のうち7作品については、第27回全国児童生徒地図優秀作品展へ作品を出展した。なお、本年度の表彰式では、これまで本コンテストへの多数の優れた作品応募を通して防災・安全教育に尽力されている広島大学附属小学校へ研究所より感謝状を贈呈した。

研究所では、コンテストの広報の一環で、マップ作成活動に関する出張授業を実施している。本年度は以下の取り組みを実施した。

- 2023年5月20日（土）、本学文学部の村中亮夫教授、せとうち観光専門職短期大学の谷崎友紀講師、石床渉准教授が、瀬戸内海の小豆島にある土庄小学校（香川県土庄町）の先生方向けに、土庄小学校の近隣エリアにおける「安全安心マップ&防災教材作成のための防災まち歩き」を実施しました（参加者：小学校教員4名、大学教員3名）。
- 2023年7月1日（土）、学校法人ヴィアトール学園洛星高等学校との連携のもと、本学文学部の村中亮夫教授が、洛星高等学校1年生8名を対象に防災をテーマにした地域調査の方法を学ぶ高大連携講座を実施しました。
- 2023年8月5日（土）・6日（日）、本学政策科学部の豊田祐輔准教授のゼミが、大阪ガス

ネットワーク株式会社と共同で、大阪府豊中市にある専門店街「せんちゅうパル」で開催された「自由研究ストリート」において、防災マップ作り体験とガス管万華鏡作りのワークショップを実施しました（参加者：小学生 67 名）。

- 2023 年 8 月 8 日（火）、本学文学部の花岡和聖准教授、熊本大学の米島万有子准教授が、株式会社アイシンと立命館大学との共同研究の一環で京都トヨタ GR ガレージ京都伏見において開催された小学生向けイベント『地理学の先生から学び、「地域の安全安心マップ」を作る』において講師を務めました（参加者：家族 10 組）。
- 2023 年 8 月 29 日（火）、北海道奥尻高等学校との連携のもと、本学文学部の村中亮夫教授、花岡和聖准教授、北海学園大学の手塚薫教授、せとうち観光専門職短期大学の谷崎友紀講師が、同校 2 年生 21 名を対象に、防災まち歩きの特設授業（高大連携講座）を実施しました。
- 2023 年 10 月 22 日（日）、株式会社アイシンと立命館大学との共同研究の一環で実施された子ども向けイベント「子どもの安全を子どもと大人で一緒になって考える—子どもの性被害（防犯）、交通安全、防災—」において、本学文学部の村中亮夫教授、花岡和聖准教授が講師を務めました（参加者：約 200 名）（立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された Asia Week 2023 の内の 1 企画として）。
- 2023 年 11 月 7 日（火）、本学政策科学部の豊田祐輔准教授が朱雀高等学校 2 年生 16 名を対象に、京都の災害や避難所運営について学ぶ防災授業を実施しました。
- 2024 年 2 月 17 日（土）、学校法人ヴィアートル学園洛星高等学校との連携のもと、本学文学部の村中亮夫教授が、洛星高等学校 1 年生 5 名、2 年生 1 名を対象に災害文化をテーマにした高大連携講座を実施しました。



表彰式の様子



集合写真

## 【歴史都市防災研究所定例研究会】

歴史都市防災研究所では、研究メンバーがそれぞれの研究成果について報告をする場として、研究会を定例開催している。発表者および参加者は、当研究所所属の教員、専門研究員等の若手研究者、学生、および客員研究員として当研究所の活動に参画いただいている学外の関係者である。各研究部会・プログラムで進めている研究プロジェクトについて、多岐にわたる専門分野の研究者が活発に意見交換を行う機会として、来年度以降も継続予定である。今年度開催した各回の内容については、以下のとおりである。

### 2022年度

#### 【第7回定例研究会】

開催日：2023年3月4日（土） 13：30～16：30

開催場所：ハイブリッド開催（朱雀キャンパス対面+Zoom）

発表者および報告内容：

成果報告、評価委員会評価

花岡 和聖（歴史都市防災研究所 所長）

各部会からの報告

A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

評価委員からの内部評価

2022年度ユネスコ・チェア国際研修実施報告

2023年度ユネスコ・チェア国際研修開催に向けた進捗報告

### 2023年度

#### 【第1回定例研究会】

開催日：2023年4月8日（土） 10：00～12：00

開催場所：オンライン（Zoom）

発表者および報告内容：

2022年度運営委員会からの報告（全体概要）

各部会からの報告

発表者および報告内容：

・ A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

花岡 和聖（文学部 准教授）

「歴史都市防災研究での空間ビッグデータの活用に向けて—「コロナ禍」の京都市を対象とした人流分析—」

- ・ B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会  
吉富 信太（理工学部 教授）  
岡尾 宗一郎（理工学部 博士課程前期課程 2 回生）  
「伝統木造建物を想定した耐力壁の開発」
  
- ・ C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会  
林 倫子（関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 准教授）  
「伝統的治水の知恵を流域治水にどのように活かすか」

### 【第 2 回定例研究会】

開催日：2023 年 5 月 13 日（土） 10：00～12：00

開催場所：オンライン（Zoom）

発表者および報告内容：

- ・ A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会  
川道 美枝子（関西野生生物研究所 代表）  
「アライグマの文化財被害に対する対策とその効果の検証」
  
- ・ B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会  
上村 裕弥（理工学研究科 博士課程前期課程 1 回生）  
「地震火災を想定した公設消防力の配備方針に関する研究～京都市における消防車台数と駆けつけ時間の視点から～」  
竹内 理登（理工学研究科 博士課程前期課程 1 回生）  
「隣接する町家の類焼可能性に関する研究～木造密集地における京町家の隣棟間隔に着目して～」
  
- ・ C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会  
豊田 祐輔（政策科学部 准教授）  
「ゲーミフィケーションを利用した地域防災知の収集」

### 【第 3 回定例研究会】

開催日：2023 年 6 月 10 日（土） 10：00～12：00

開催場所：オンライン（Zoom）

発表者および報告内容：

- ・ A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会  
小川 圭一（理工学部教授）  
「「飛び出し坊や」の設置状況と地域の道路形成過程との関連分析」
  
- ・ B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会  
辻川 愛（理工学研究科 博士課程前期課程 2 回生）

「土砂・洪水氾濫に対する霞堤の減災効果に関する研究」

・C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

本間 睦朗（理工学部 教授）

「光環境制御の可能性」

#### 【第4回定例研究会】

開催日：2023年10月7日（土） 10：00～12：00

開催場所：オンライン（Zoom）

発表者および報告内容：

・A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

河角 直美（文学部 教授）

「戦後沖縄の復興とその記憶 –写真資料・地図資料を手掛かりとして–」

・B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

伊藤 真一（理工学部 講師）

「清水寺の現地計測データを活用した斜面崩壊に対する危険度評価」

・C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

TIAN YE（政策科学研究科 博士課程前期課程2回生）

「防災活動に対する市民参加意識に関する研究」

#### 【第5回定例研究会】

開催日：2023年12月2日（土） 10：00～12:00

開催場所：オンライン（Zoom）

発表者および報告内容：

・A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

阿部 俊彦（理工学部 准教授）

「ローカルまちづくりとリージョナルデザイン」

・B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

福山 智子（理工学部 准教授）

「軍艦島鉄筋コンクリート構造物の経年変化」

・C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

金 度源（理工学部 准教授）

「重要伝統的建造物群保存地区における自主防災組織の活動状況に関する研究」

**【第6回定例研究会】**

開催日：2024年2月24日（土） 9：00～12：00

開催場所：オンライン（Zoom）

発表者および報告内容：

歴史都市防災研究所 合同修士論文・卒業研究発表会

**【第7回定例研究会】（予定）**

開催日：2024年3月2日（土）

開催場所：オンライン（対面を基本とする）

発表者および報告内容：

成果報告、評価委員会評価